



ARIS RISK & COMPLIANCE MANAGER データのエクスポートに対する意味論の検証

バージョン 10.0 - SERVICE RELEASE 9

2019 年 7 月

This document applies to ARIS Risk & Compliance Manager Version 10.0 and to all subsequent releases.

Specifications contained herein are subject to change and these changes will be reported in subsequent release notes or new editions.

Copyright © 2010 - 2019 [Software AG](#), Darmstadt, Germany and/or Software AG USA Inc., Reston, VA, USA, and/or its subsidiaries and/or its affiliates and/or their licensors.

The name Software AG and all Software AG product names are either trademarks or registered trademarks of Software AG and/or Software AG USA Inc. and/or its subsidiaries and/or its affiliates and/or their licensors. Other company and product names mentioned herein may be trademarks of their respective owners.

Detailed information on trademarks and patents owned by Software AG and/or its subsidiaries is located at <http://softwareag.com/licenses>.

Use of this software is subject to adherence to Software AG's licensing conditions and terms. These terms are part of the product documentation, located at <http://softwareag.com/licenses> and/or in the root installation directory of the licensed product(s).

This software may include portions of third-party products. For third-party copyright notices, license terms, additional rights or restrictions, please refer to "License Texts, Copyright Notices and Disclaimers of Third Party Products". For certain specific third-party license restrictions, please refer to section E of the Legal Notices available under "License Terms and Conditions for Use of Software AG Products / Copyright and Trademark Notices of Software AG Products". These documents are part of the product documentation, located at <http://softwareag.com/licenses> and/or in the root installation directory of the licensed product(s).

目次

1	テキストの表記規則	1
2	はじめに	2
3	意味論レポートの使用	3
3.1	意味論レポートのインストール	3
3.2	意味論レポートの実行	3
3.2.1	エラー メッセージがないレポートの例	4
4	重要情報	5
4.1	意味論レポートに必要なその他のコンポーネント	5
4.2	意味論の検証に使用できるレポートと、そのレポートを実行できるコンテキストについて	6
4.3	監査テンプレートに対して定義されている検証について	6
4.4	統制に対して定義されている検証について	8
4.5	階層構造に対して定義されている検証について	9
4.6	方針の定義に対して定義されている検証について	10
4.7	質問票テンプレートに対して定義されている検証について	12
4.8	リスクに対して定義されている検証について	13
4.9	検査の定義に対して定義されている検証について	15
4.10	ユーザー グループに対して定義されている検証について	16
4.11	ユーザーに対して定義されている検証について	16
5	法的情報	17
5.1	文書範囲	17
5.2	データ保護	17
5.3	免責事項	18
6	キーワード	i

1 テキストの表記規則

各項目の表記規則について説明します。

- メニューアイテムやダイアログ ボックスなどの UI 用語は角括弧 ([]) で表記されます。
- ユーザーが入力する内容は、**<太字で山括弧内>** で表示されます。
- 複数行から成る長いディレクトリ パスなどの、1 行から成る例のテキストは文字 ↵ により行の最後で分割されます。
- ファイルからの抽出テキストは、次のフォントで表示されます。
This paragraph contains a file extract.
- 警告の背景は色付きです。

警告

この段落には警告が記載されます。

2 はじめに

ARIS でモデル化するには、一定の規則に従う必要があります。これらの規則に従っていない場合は、ARIS から ARIS Risk & Compliance Manager へのデータの同期はキャンセルされます。意味論レポートを使用すると、同期する前にデータをチェックして、ガイドラインを満たしていることを確認することができます。レポートは個別に実行、またはマクロを使用してすべての既存のレポートを次々に実行できます。作成されたログを使用して、モデリング エラーを修正できます。これにより、ARIS Risk & Compliance Manager への同期が正常に行われます。概念設計とモデリングから同期の取扱いまで、詳細な説明は表記規則マニュアル『../documents/ARCM - Modeling Conventions.pdf 参照』を参照してください。意味論検証レポートに関する以下の説明は、ARCM-Semantics_Properties.js 設定ファイル、およびレポートの標準定義に基づいています。

リスクベースまたは統制ベースのモデリング

リスクベースまたは統制ベースで ARIS Risk & Compliance Manager 用にデータのモデリングを行うことができます。リスクベースのアプローチでは、リスクが中心オブジェクトになります。統制ベースのアプローチでは、中心オブジェクトは統制です。どのアプローチを使用するかは、プロジェクト開始時に ARIS でモデル化する際に決定する必要があります。リスクベースまたは統制ベースのアプローチは排他的です。すなわち、1つの ARIS Risk & Compliance Manager では、どちらか一つのアプローチしか適用できません。

3 意味論レポートの使用

3.1 意味論レポートのインストール

デフォルトでは、ARIS Risk & Compliance Manager 意味論レポートはレポート カテゴリ ARIS Risk & Compliance Manager で使用できます。マスター レポート [ARIS Risk & Compliance Manager モデル作成の規則の準拠確認] は、個々の意味論レポートを実行します。

3.2 意味論レポートの実行

意味論レポート『5 ページ』の実行方法は 2 つあります。レポートを個別に実行することも、使用可能なすべてのレポートを順に実行するマスター レポートを起動することもできます。



レポートを個別に実行する

レポートを個別に実行する場合は、必要な属性が存在するかどうか、有効かどうか、必要なオブジェクト関係が存在するかどうかを、特定のオブジェクト タイプに対して検証することができます。

必要条件

- データベース アイテムを保存するグループへの読取権限が必要です。
- アイテムが保存されていること。
- このスクリプトにアクセスできること。スクリプトへのアクセスは特定のユーザー グループに制限できます。

手順



1. ARIS Architect を起動します。
2. [ARIS] から  [エクスプローラー] をクリックします。[エクスプローラー] タブが開きます。
3. [ナビゲーション] バーがまだアクティブ化されていない場合は、バー パネルで  [ナビゲーション] をクリックします。
4. 関連するオブジェクトやモデルまたはグループを右クリックします。
5. [評価] から [レポートの開始] をクリックします。レポート ウィザードが開きます。
6. [ARIS Risk & Compliance Manager] カテゴリを選択してから、目的の意味論レポート（～の意味論検証）を選択します。
7. [次へ] をクリックします。
8. 出力設定を選択します。
9. [完了] をクリックします。
10. モデリング アプローチを選択します。
11. [OK] をクリックします。

レポートが開始されます。結果レポートがテキスト ファイルで出力されます。

使用可能なすべてのレポートを実行する

[ARIS Risk & Compliance Manager モデル作成の規則の準拠確認] レポートを起動すると、使用可能なすべてのレポートが定義されている順序で処理されます。

手順

1. ARIS Architect を起動します。
2. [ARIS] から  [エクスプローラー] をクリックします。[エクスプローラー] タブが開きます。
3. [ナビゲーション] バーがまだアクティブ化されていない場合は、バー パネルで  [ナビゲーション] をクリックします。
4. 関連するグループまたはデータベースを右クリックします。
5. [評価] から [レポートの開始] をクリックします。レポート ウィザードが開きます。
6. [ARIS Risk & Compliance Manager] カテゴリの [ARIS Risk & Compliance Manager モデル作成の規則の準拠確認] レポートを選択します。
7. [次へ] をクリックします。
8. 出力設定を選択します。
9. [完了] をクリックします。
10. モデリング アプローチを選択します。
11. [OK] をクリックします。

使用可能なすべてのレポートが開始されます。結果レポートは、テキスト ファイルとして出力される個々のレポートすべての結果に基づいて作成された累積レポートです。

3.2.1 エラー メッセージがないレポートの例

```
*****
検査の定義に対する意味論の検証に関するエラー レポート
*****
```

エラーは検出されませんでした。

4 重要情報

このセクションでは、記載された手順に関する背景情報を提供します。

4.1 意味論レポートに必要なその他のコンポーネント

意味論の検証『3 ページ』ロジックは 4 つのコンポーネントから構成されています。

該当する検証を実行するためのレポート

- 階層構造の意味論検証
- リスクの意味論検証
- 統制の意味論検証
- 検査定義の意味論検証
- ユーザーの意味論検証
- ユーザー グループの意味論検証
- 質問票テンプレートの意味論検証
- 監査テンプレートの意味論検証

使用可能なレポートの基本機能を提供する JAVASCRIPT ファイル

- arcm-common.js ([共通ファイル] セクション)
- arcm-mapping.js ([共通ファイル] セクション)
- aris2arc-mapping.xml ([共通ファイル] セクション)
- **ARCM-Semantics_BaseDataFunctions.js**
- **ARCM-Semantics_BaseReportAndOutputFunctions.js**

検証を設定するための JAVASCRIPT ファイル

- **ARCM-Semantics_Properties.js**

使用可能なレポートすべてをひとつの手順で実行するためのマスター レポート

[ARIS Risk & Compliance Manager モデル作成の規則の準拠確認] レポートは、すべての割り当て済みのレポートを実行し、結果をマージして出力します。

4.2 意味論の検証に使用できるレポートと、そのレポートを実行できるコンテキストについて

意味論レポートは以下のように実行できます。

レポート	コンテキスト
階層構造の意味論検証	グループ
リスクの意味論検証	グループ
統制の意味論検証	グループ
検査定義の意味論検証	グループ
ユーザー グループの意味論検証	グループ
ユーザーの意味論検証	グループ
質問票テンプレートの意味論検証	グループ
調査タスクの意味論の検証	グループ
監査テンプレートの意味論検証	グループ
方針の意味論検証	グループ

マクロ	コンテキスト
ARIS Risk & Compliance Manager モデル作成の規則の確認	データベース、グループ

4.3 監査テンプレートに対して定義されている検証について

これは、設定ファイルおよびレポートのデフォルト定義に関する説明です。

レポート名

監査テンプレートの意味論検証

実行される検証

レポートでは以下のことが検証されます：

- [ARCM の同期] 属性が設定されていること。この属性がアクティブになっている統制テンプレートのみが含まれます。
- 統制が 1 つの監査所有者グループ、1 つの監査評価者グループ、最大 1 つの監査監査者グループに接続されていること。
- 監査手順が 1 つの監査手順所有者グループに接続されていること。

- モデル内の階層タイプに対して [範囲内である] タイプの接続線が最大 1 本存在すること。
- 一意のツリー構造を提供するために、監査手順が 1 つの上位監査手順または 1 つの監査に [属する] タイプの接続線で接続されていること。
- 監査テンプレートまたは監査手順テンプレートがモデル内に 1 つ存在すること。
- 監査の準備開始日が、監査期間前または監査期間と同じであること。
- 監査手順期間が監査期間内にあること、または監査期間の開始日および終了日と監査期間が同じであること。監査期間の終了日は、[週末休み] 属性に設定された値を考慮に入れて、開始日と最大合計時間から算出されます。
- 次のオブジェクトの必須属性が設定されていること:
 - **監査テンプレート:**
 - 名前
 - 開始日
 - 最大合計時間
 - 監査準備の開始日
 - 統制期間の開始日
 - 統制期間の終了日
 - **監査手順テンプレート:**
 - 名前
 - 開始日
 - 最大合計時間
 - 必要な処理時間
- 監査テンプレートまたは監査手順テンプレートの範囲を定義する目的で、[階層タイプ] (リスク カテゴリ、アプリケーション システム タイプ、ファンクション (プロセス)、組織ユニット、用語) が、[範囲内である] 接続線を使用してタスク割当図に接続されていること。
- 最大合計時間および関連する処理時間の値が 0000:00:00:00 ではないこと。
- 関連する処理時間の値が最大合計時間の値以下であること。

4.4 統制に対して定義されている検証について

これは、設定ファイルおよびレポートのデフォルト定義に関する説明です。

レポート名

統制の意味論検証

実行される検証

リスクベースのモデリング

レポートでは以下のことが検証されます：

- 次の必須属性が設定されているかどうか：
 - **名前**
- モデル化されたビジネス コントロール図の中で、統制が一意であること。
- 統制が 1 つのビジネス コントロール図のみにオカレンスを持つこと。
- 統制が、[ARCM の同期] 属性が設定されている 1 つのリスクに接続されていること（検証が [ARCM の同期] 属性が設定されているリスク図で開始された場合は当てはまらない）。
- 各統制が接続される統制担当者グループは最大 1 つであること。

統制ベースのモデリング

レポートでは以下のことが検証されます：

- 次の必須属性が設定されているかどうか：
 - **名前**
- モデル化されたビジネス コントロール図の中で、統制が一意であること。
- 統制が 1 つのビジネス コントロール図のみにオカレンスを持つこと。
- [ARCM の同期] 属性が設定されていること。この属性がアクティブになっている統制のみが含まれます。
- 各統制が接続される統制担当者グループは最大 1 つであること。
- 統制が接続されるファンクションは最大 1 つであること。プロセス階層の生成には、ネットワーク構造ではなくツリーが必要です。

リスクと統制ベースのモデリング

統制実行タスクが統制とリンクされているかどうかを検証します。リンクされている場合は、次を検証します。

- 次の必須属性が設定されているかどうか：
 - **名前**
 - **統制の頻度**
 - **統制実行記録の期限(単位: 日)**
([統制記録の頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。)

- **開始日**
([統制記録の頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。)
- **記録期間の長さ**
- 統制実行タスクが統制とリンクされていること。
- 統制実行タスクが 1 つのグループのみにリンクされていること (統制実行所有者グループが 1 つのみであること)。
- [場合に応じる] が値として統制記録の頻度に設定されている場合は、[イベント駆動統制記録許可] 属性は「true」に設定されます。
- 開始日が終了日よりも前であること。
- モデル化されたビジネス コントロール図の中で、統制実行タスクが一意であること。
- 統制実行タスクに割り当てられている統制が 1 つであること。1 つの統制に複数の統制実行タスクを割り当てることは可能ですが、1 つの統制実行タスクに複数の統制を割り当てることはできません。
- 1 つのビジネス コントロール図には統制実行タスクが 1 つしかないこと。

4.5 階層構造に対して定義されている検証について

これは、設定ファイルおよびレポートのデフォルト定義に関する説明です。

レポート名

階層構造の意味論検証

コンテキスト

デフォルト定義に従って、この検証では、次のようなモデルを持つ階層構造が使用されます。

プロセス

EPC、付加価値連鎖図、ファンクション割当図

組織ユニット

- **組織図**

規定

- **用語モデル**

特別に規制変更管理向け

レポートでは以下のことが検証されます:

- [評価関係] 属性が選択されていること。この場合、次の必須属性と条件が確認されます。
 - **評価の頻度**
 - **評価実行期限 (単位: 日)**
 - **評価の開始日**
 - 用語は、1 つの階層所有者グループに接続されている必要があります。

検査者

検査者の階層に対してモデルを指定できません。組織ユニットに対して指定されたモデルが使用されます。

アプリケーション システム タイプ

- アプリケーション システム タイプ図

リスク カテゴリ

- リスク図

実行される検証

レポートでは以下のことが検証されます:

- すべての階層構造に対して、次の必須属性が設定されているかどうか:
 - 名前
- 各階層要素にある親ノードは最大 1 つであること。
- 階層要素が (アプリケーション システム タイプとリスク カテゴリ階層に関係しない) 1 つのサインオフ所有者グループのみに接続されていること。

ARIS Risk & Compliance Manager での階層の構築に使用できるのはツリーのみです。ネットワーク構造は使用できません。

リスクベースのモデル作成の特別な機能

- レポートでは、割り当てられたリスクに対して [ARCM の同期] 属性が設定されているかどうか検証されます。プロセスに関しては、[ARCM の同期] 属性が設定されているリスクが割り当てられているオブジェクトのみが含まれます。
- レポートでは、検査者階層と組織階層の間に重複があるかどうかを検証します。組織ユニットは検査者階層と組織階層に同時に属することはできません。

統制ベースのモデル作成の特別な機能

レポートでは、割り当てられた統制に対して [ARCM の同期] 属性が設定されているかどうか検証されます。プロセスに関しては、[ARCM の同期] 属性が設定されている統制が割り当てられているオブジェクトのみが含まれます。

4.6 方針の定義に対して定義されている検証について

これは、設定ファイルおよびレポートのデフォルト定義に関する説明です。

レポート名

方針の意味論検証

(オブジェクトタイプ名は、ARIS では「方針」、ARIS Risk & Compliance Manager では「方針の定義」)

実行される検証

レポートでは以下のことが検証されます：

- [ARCM の同期] 属性が設定されていること。この属性がアクティブになっている方針の定義のみが含まれます。
- 方針の定義が 1 つの方針所有者グループに接続されていること。
- 方針の定義が 1 つ以下の方針監査人グループに接続されていること。
- 方針が [確認が必要] タイプの場合は、少なくとも 1 つの方針受取人グループが接続されていること。
- 公開の開始日が公開準備期間の開始日よりも後であること。
- 公開期間の終了日が公開期間の開始日よりも後であること。
- 公開準備期間の終了日が公開準備期間の開始日よりも後であること。
- 承認期間の終了日が承認期間の開始日よりも後であること。
- 承認者の承認期間が、所有者の公開準備期間内であること。
- 次のオブジェクトの必須属性が設定されていること：
 - **方針の定義：**
 - 名前
 - 方針タイプ
 - 公開準備期間の開始日
 - 公開準備期間の終了日
 - 公開期間の終了日
 - 承認期間の開始日
 - 承認期間の終了日
 - 方針が [確認が必要] タイプの場合は、[承認期間]。
 - 方針評価タスク：
 - 方針に評価に関係するものとしてマークが付けられている場合、[評価頻度]
 - 方針に評価に関係するものとしてマークが付けられている場合、[イベント駆動の評価許可]
 - 方針に評価に関係するものとしてマークが付けられている場合、[実行期限 (単位: 日)]
([評価頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。)
 - 方針に評価に関係するものとしてマークが付けられている場合、[開始日]
([評価頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。)

4.7 質問票テンプレートに対して定義されている検証について

これは、設定ファイルおよびレポートのデフォルト定義に関する説明です。

レポート名

質問票テンプレートの意味論検証

実行される検証

レポートでは以下のことが検証されます：

- [ARCM の同期] 属性が設定されていること。この属性がアクティブになっている質問票テンプレートのみが含まれます。
 - 次のオブジェクトの必須属性が設定されていること：
 - **質問票テンプレート：**
 - **名前**
 - **セクション：**
 - **名前**
 - **質問：**
 - **質問文および**
 - **質問タイプ：**
 - **単一選択**または
 - **複数選択**または
 - **テキスト**または
 - **数値（整数）**または
 - **数値（浮動小数点）**または
 - **日付**または
 - **日付範囲**
- 質問票タイプが [単一選択] または [複数選択] である場合、オプション セットまたは少なくとも 1 つの回答オプションのいずれかが割り当てられている必要があります（必須フィールド）。
- [テキスト]、[数値]、[日付]、[日付範囲] 質問タイプが選択されている場合、[評価者による評価] フィールドは必須になります。[評価者による評価] 属性が [はい] に設定されている場合は、オプション セットまたは回答オプションを割り当てる必要があります（必須フィールド）。
- 複数の回答オプションまたは 1 つのオプション セットを、1 つの質問に割り当てることができます。回答オプションとオプション セットを同時に割り当てることはできません。別の割り当てを追加する前に、それぞれの割り当てを削除する必要があります。
- **オプション セット：**
 - **名前**

- **回答オプション:**
 - **回答**
- 質問がセクション内で 1 回のみ発生すること。ただし、異なるセクションで質問を使用することはできます。
- オプション セットが常に少なくとも 1 つの回答オプションに割り当てられていること。
- 接続されているすべての調査タスクが最低 1 つの調査回答者グループと 1 つの調査評価者グループに接続されていること。
- 接続されているすべての調査タスクが 1 つの調査担当者グループの最大に接続されていること (この割り当ては必須ではありません)。
- これらの調査タスクの必須属性が設定されていること:
 - **頻度**
 - **開始日**
([頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。)
 - **実行期限 (単位: 日)**
([頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。)

4.8 リスクに対して定義されている検証について

これは、設定ファイルおよびレポートのデフォルト定義に関する説明です。

レポート名

リスクの意味論検証

実行される検証

リスクベースのモデリング

レポートでは以下のことが検証されます:

- 次の必須属性が設定されているかどうか:
 - **名前**
- [ARCM の同期] 属性が設定されていること。この属性がアクティブになっているリスクのみが含まれます。
- リスクが 1 つのリスク担当者グループのみに接続されていること。
- モデル化されたビジネス コントロール図の中で、これらのリスクが一意であること。1 つのリスクは複数の統制を持つことができますが、1 つの統制を持つことができるリスクは 1 つのみです。
- リスクが 1 つのビジネス コントロール図のみにオカレンスを持つこと。
- リスクが接続されるファンクションは最大 1 つであること。プロセス階層の生成には、ネットワーク構造ではなくツリー ビューが必要です。

- [リスク マネジメント関連] 属性が選択されていること。この場合、次の必須属性と条件が確認されます。
 - **評価の頻度**
 - **実行期限（単位：日）**
([評価の頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。)
 - **リスク評価の開始日**
([評価の頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。)
- リスクが 1 つのリスク所有者グループと 1 つのリスク評価者グループに割り当てられていること。

統制ベースのモデリング

レポートでは以下のことが検証されます：

- 次の必須属性が設定されているかどうか：
 - **名前**
- 各リスクが、[ARCM の同期] 属性が設定されている最低 1 つの統制に接続されていること。
- リスクが 1 つのリスク担当者グループのみに接続されていること。
- リスクが 1 つのビジネス コントロール図のみにオカレンスを持つこと。
- [リスク マネジメント関連] 属性が選択されていること。この場合、次の必須属性と条件が確認されます。
 - **評価の頻度**
 - **実行期限（単位：日）**
([評価の頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。)
 - **リスク評価の開始日**
([評価の頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。)
- リスクが 1 つのリスク所有者グループと 1 つのリスク評価者グループに割り当てられていること。
- リスクが割り当てられるファンクションは最大 1 つであること。

4.9 検査の定義に対して定義されている検証について

これは、設定ファイルおよびレポートのデフォルト定義に関する説明です。

レポート名

検査定義の意味論検証

実行される検証

レポートでは以下のことが検証されます：

- 次の必須属性が設定されているかどうか：
 - 名前
 - 検査タイプ：
 - 整備状況の有効性テスト
 - 運用状況の有効性テスト
 - 検査の頻度
 - 実行期限（単位：日）（値は 1 から 365 までのあいだであること）
（[検査の頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。）
 - 検査の定義の開始日
（[検査の頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。）
 - 統制期間の長さ
- モデル化されたビジネス コントロール図の中で、検査の定義が一意であること。
- 検査の定義が 1 つのビジネス コントロール図のみにオカレンスを持つこと。
- 検査の定義がそれぞれ 1 つの検査グループと 1 つの評価者グループに接続されており、各グループのメンバーが 2 つのグループのいずれかにのみ割り当てられている場合のみ。
- 検査の定義がそれぞれ 1 つの検査担当者グループの最大に接続されていること（このグループの割り当ては必須ではありません）
- 検査の定義がそれぞれ 1 つの組織ユニットに接続されていること。ARIS Risk & Compliance Manager では、組織階層への割り当てが必要です。
- 検査の定義に接続される検査者グループもまた検査者階層の 1 つの要素に接続されていること。
- [場合に応じる] が値として検査の頻度に設定されている場合は、[イベント駆動のテスト ケース許可] 属性は「true」に設定されます。

リスクベースのモデル作成の特別な機能

レポートでは以下のことが検証されます：

- 各検査の定義が、[ARCM の同期] 属性が設定されているリスクに接続されている 1 つの統制に接続されていること。

統制ベースのモデル作成の特別な機能

レポートでは以下のことが検証されます:

- 各検査の定義が、[ARCM の同期] 属性が設定されている 1 つの統制に接続されていること。

4.10 ユーザー グループに対して定義されている検証について

これは、設定ファイルおよびレポートのデフォルト定義に関する説明です。

レポート名

ユーザー グループの意味論検証

実行される検証

レポートでは以下のことが検証されます:

- 次の必須属性が設定されているかどうか:
 - **名前**
- [役割] タイプの 1 つのオブジェクトが、[役割] タイプの複数のオブジェクトに接続されていること。ARIS Risk & Compliance Manager では、1 つのグループが持つことができる役割は 1 つだけです。レポートでは、1 つのグループが 1 つの役割に接続されているかどうかの検証や、1 つのユーザー グループが [検査者] タイプの 1 つの階層要素で検査者の役割に接続されているかどうかの検証は行われません。

4.11 ユーザーに対して定義されている検証について

これは、設定ファイルおよびレポートのデフォルト定義に関する説明です。

レポート名

ユーザーの意味論検証

実行される検証

レポートでは以下のことが検証されます:

- 次の必須属性が設定されているかどうか:
 - ログオン
 - 名
 - 姓
 - **電子メール アドレス**
- ユーザー ID に英数文字とピリオド (.)、ハイフン (-)、またはアンダースコア (_) のみが含まれていること。

5 法的情報

5.1 文書範囲

記載情報は、公開時点における設定および機能についての説明です。文書とソフトウェアは生産サイクルが異なるため、設定および機能の説明は実際の設定および機能と異なる場合があります。相違に関する情報は製品に付属しているリリース ノートに記載されています。リリース ノートをお読みになり、その情報を考慮に入れた上で、製品をインストール、設定およびご使用ください。

Software AG のサービスを利用せずにシステムの技術的機能と業務機能をインストールする場合は、インストールするシステム、その目的、対象システム、さまざまな依存性などに関して広範な知識が必要です。プラットフォームの数が多く、ハードウェアとソフトウェアの設定が相互に依存するので、特定のインストール シナリオのみしか記述できません。すべての設定と依存性を記述することはできません。

各種の技術を組み合わせる場合は、製造元の指示（特にインターネット ページに公開されたリリースに関するお知らせ）に従ってください。承認されているサードパーティ システムが正しく機能すること、および正しくインストールされることの保証はいたしかねます。また、サードパーティ システムはサポートしていません。必ず、該当の製造元のインストール マニュアルに記載されている手順に従ってください。問題がある場合は、製造元にお問い合わせください。

サードパーティ システムのインストールにサポートが必要な場合は、最寄りの Software AG の販売部門にお問い合わせください。このような製造元またはお客様固有の変更は、Software AG の標準ソフトウェア保守契約の対象ではありません。このような変更は、それを特別に要請し、同意した場合にのみ実行できます。

説明の中で特定の ARIS 製品を参照している場合、製品には名前が付けられています。それ以外の場合、ARIS 製品の名前は次のように使用されます。

名前	対象
ARIS 製品	Software AG 標準ソフトウェアの使用許諾契約が適用されるすべての製品を指します。
ARIS クライアント	ARIS Server を介して共有データベースにアクセスする ARIS Architect または ARIS Designer などのすべてのプログラムを指します。
ARIS ダウンロード クライアント	ブラウザーを使用してアクセスできる ARIS クライアントを指します。

5.2 データ保護

Software AG の製品は、個人データの処理に関して EU 一般データ保護規則（General Data Protection Regulation; GDPR）に準拠した機能を提供しています。

該当する場合は、対応する管理文書に適切な手順が記録されます。

5.3 免責事項

ARIS 製品は個人による使用を目的として開発されています。内容の生成や、インターフェイスを使用したオブジェクト/成果物のインポートなどの自動化プロセスによって、データ量が膨大になり、その実行が処理能力や物理的な限界を超える可能性があります。使用可能なメモリが操作の実行やデータの格納に対して不十分な場合には、物理的な限界を超える可能性があります。

ARIS Risk & Compliance Manager を効率的に操作するには、信頼性があり、高速なネットワーク接続が必要です。応答時間が不十分なネットワークでは、システムのパフォーマンスが下がり、タイムアウトを引き起こす可能性があります。

ARIS 製品が仮想環境で使用されている場合は、オーバースペックのリスクを回避するために十分なリソースが利用できることが必要になります。

このシステムは、400 人のユーザーが同時にログオンする内部統制システムのシナリオでテストされました。これには 2 百万個のオブジェクトが含まれます。適切なパフォーマンスを確保するために、500 人を超えるユーザー以上が同時にログオンしない状況で運用することを推奨します。顧客固有の調整、特に一覧とフィルター調整はパフォーマンスを悪化させます。

6 キーワード

A

ARIS Risk & Compliance Manager レポート

エラー メッセージがない場合の例 - 4

ユーザー - 16

ユーザー グループ - 16

リスク - 13

階層構造 - 9

監査テンプレート - 6

検査の定義 - 15

質問票テンプレート - 12

統制 - 8

方針の定義 - 10

あ

インストール - 3

か

コンテキスト - 6

コンポーネント - 5

は

はじめに - 2

漢字

実行 - 3